

(1) 将来像以外の内容について

今回の議題について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

今回の議題について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

(1) 将来像以外の内容について

①基本構想の役割

①基本構想の役割について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

①基本構想の役割について

●基本目標の見出しや位置づけに関する意見（1/2）

意見	対応
<p>見出しは「めざすべきまちの姿」の方がよい。基本目標の見出しを変更するのは賛成。</p>	<p>※次頁でまとめて記載</p>
<p>見出しを変更すること自体は賛成だが、「めざすべきまちの姿」に変更することはやめた方がいい。将来像に「将来都市像」や「めざすべきまちの姿」を掲げている自治体が多いので、「将来像を実現するためのまちの姿」のような表現がいいと思う。</p>	
<p>見出しについては、表現を変えるよりは基本理念、将来像、基本目標の関係性を整理すべきではないか。体系化をして示すと基本目標という言葉置き換えなくてもいいのではないか。また、見出しに副題をつけるのもよいのではないか。</p>	
<p>区民に分かりやすいことが一番大事である。全体のバランスで工夫して定めればよい。</p>	
<p>基本目標の見出しについて、書き方がこのままだとどう違うのか分からないので、言葉を代えるのか、説明を加えるのか考えた方がよい。</p>	
<p>このままでは理念、将来像、基本目標の構造は分かりづらいが、「めざすべきまちの姿」という表現だと意味が明らかに違ってしまふ。表現を変えるにしても、もう少し議論が必要である。</p>	

①基本構想の役割について

●基本目標の見出しや位置づけに関する意見（2/2）

意見	対応
前回の基本構想にある基本理念、将来像、基本目標についての説明文は必要ではないか。「基本目標」は説明文がないと正確に伝わらない可能性がある。読んですぐわかる文章が必要である。	<ul style="list-style-type: none">見出しに副題をつけ、「<u>基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）</u>」に修正基本構想の役割部分に、<u>基本理念、将来像、基本目標の関係性を表す図</u>を追加
「基本目標」の見出しを修正して分かりやすくするか、もしくは説明を入れて補足することで分かりやすくするか2つの意見があった。検討が必要。	

①基本構想の役割について

序章 基本構想策定の背景と役割

2 基本構想の役割

基本構想は、2040年ごろの大田区のめざすべき将来像を提示し、今後のまちづくりの方向性を明らかにした、区的最上位の指針です。

大田区に関わるすべての人々の共通の目標として、この基本構想を策定します。

①基本構想の役割について

○基本理念、将来像、基本目標の関係について

「基本理念」とは、基本構想全体を貫くものであり、「将来像」や「基本目標」を実現していく上での基本的な考え方です。

また、「将来像」を実現するためのまちの姿として、4つの「基本目標」を定めています。

①基本構想の役割について

○基本構想の全体像（イメージ）

基本理念

地域力を
高める

多様な個性が
輝く

豊かなまちを
未来へつなげる

将来像

「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち おおた」

基本目標

未来を創り出すこどもたちが
夢と希望をもって健やかに育つまち

文化を伝え育み誰もが笑顔で
いきいき暮らすまち

豊かな環境と産業の活力で
持続的に発展するまち

安全・安心で活気とやすらぎの
ある快適なまち

(1) 将来像以外の内容について

②基本理念

②基本理念について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

②基本理念について

●基本理念に関する意見(1/5)

意見	対応
「多様な個性が輝く」は無理やり活躍させるように捉えることもできてしまう。また、個性を照らし合わせたくない人もいると思う。「個性が生きる」などの表現がよいのではないか。	<ul style="list-style-type: none">• <u>見出しの「多様な個性が輝く」は残しつつ、「多様な個性がそれぞれの輝きを照らしあうことにより」を「多様な個性がそれぞれの持ち味を活かすことにより」に修正</u>
個性の柱について、輝きたくない人に焦点をあてて修正することには違和感があり、活躍したくない人に配慮して再考するのはよくない。「個性が輝く」の表現はよい。	
個性の柱について、「個性が輝く」は強制されているように聞こえる。「尊重しあう」などの表現がよい。	
「能力」という言葉は「能力主義」などとして、生まれながらの身体的・精神的な能力の違いで差別につながる。「多様な個性が輝く」に「能力」が出てくるが、単に「力」でも十分ではないか。（石渡委員 追加意見）	<ul style="list-style-type: none">• <u>「能力」を「力」に修正</u>

②基本理念について

●基本理念に関する意見(2/5)

意見	対応
<p>「未来へつなげる」は区の様々な歴史がある中で、区がどういう立地でメリット・弱点があり、それらを未来へどのようにつなげていくかという視点があってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none">見出しを「<u>豊かなまちを未来へつなげる</u>」に修正。説明文の内容を踏まえつつ、何を未来に引き継ぐか明確化。ただし、文化のみを引き継ぐのではなく、持続的な発展を目指していく柱のため「豊かなまち」という表現とした説明文に「<u>区の歴史や文化を引き継ぎ</u>」と「<u>区の特徴を踏まえ</u>」を追記
<p>「未来へつなげる」は何をつなげるのかが不明瞭。考え方は賛成だが、表現を工夫してもよいのではないか。</p>	
<p>「未来へつなげる」では何を未来につなげるのかよく分からない。歴史や文化を未来へつなぐだと分かりやすいのではないか。将来像のキーワードにあった「文化かおる」等で表現しても、大田区が積み重ねてきた大切な財産である文化をもう少し表に出せるのではないか。</p>	

②基本理念について

●基本理念に関する意見(3/5)

意見	対応
<p>「地域力」の定義の中に「事業者」はあるが「企業」は出てこない。そのため説明文に「企業」を入れる必要はないのではないかと。</p>	<p>※次頁でまとめて記載</p>
<p>既に地域と企業は連携協働している。例えば、防災においても、企業と防災協定を結んでいる。地域及び地域活動というものを理解していただきたい。地域力から「企業」は外してほしくない。</p>	
<p>企業が一緒になって、防災に関わっているので、企業という言葉がなくされると困る。企業がたくさんある地域も多く、ないがしろにすると町会全体が成り立たないため、1軒1軒まわって交流し、協定を結んでいる。災害時が一番課題で、災害発生時や発生後、企業が人材、金品、場所の提供のうちどの協力可能かデータを取っている。まちは簡単なものではない。様々な企業、商業、工業を含めて地域である。何を外しても地域ではないので、地域力から「企業」は外さないでほしい。</p>	
<p>地域で子育てするということで、企業が学校へ授業に行ったり、こどもが町工場の見学をする等、企業がこどもたちを育てることは職住接近の大田区ならではの特征だと思うので、主体の一つに企業も入れていただきたい。</p>	

②基本理念について

●基本理念に関する意見(4/5)

意見	対応
<p>現在の基本構想策定時に定義した地域力という言葉について、企業に関して様々な意見があったこと等を踏まえると、定義の部分を見直していく時期が来ているのではないかと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 基本理念の地域力の柱の中の「<u>企業</u>」という表記は残す形に• 地域力の定義中の「事業者」を「<u>企業・事業者</u>」に修正
<p>平成17年に制定した大田区区民協働推進条例において「事業者」という言葉が定義され、現在の基本構想に応用されている。その後、平成31年に大田区公民連携基本指針が策定されて以降、「企業」という言葉が公民連携とセットで使われるようになったため、企業という言葉でよいのではないか。</p>	
<p>これまでの理解では、事業者の中に企業も入っているというものだったが、逆に企業と明示することで、企業（公共）に対して目を向け、地域のことに協力してほしいという呼びかけの意味もあると思うので、文言の精査をしてほしい。</p>	
<p>地域力の柱が3つの柱の1番目にあるが、一番下には地域力の定義が改めて記載されている。分ける必要はなく、「地域力」を見出しに使用するのがよい。「地域力」は前区長が一生懸命地域に浸透させてきた言葉であるため、あえて継続して使用する考え方があってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 見出しに「<u>地域力</u>」を入れる形に修正
<p>「地域の輪を広げる」というのを「地域力の輪を広げる」や「地域力を広げる」と変えることには賛成である。</p>	

②基本理念について

●基本理念に関する意見(5/5)

意見	対応
<p>現在の基本構想の柱である「地域力」については基本理念に盛り込まれており、とても大事なことだと思うが、もう一つの柱であった「国際都市」は新たな基本構想でどのように吸収されるのか。国際都市おおた宣言の内容を踏まえると、基本目標だけでは吸収できない幅広さがあるため、どこかで表現するのであれば基本理念になるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 国際都市おおた宣言には、Ⅰインバウンダ的要素（おもてなしの翼）、Ⅱ多文化共生的要素（ふれあいの翼）、Ⅲ産業的要素（みらいの翼）がある• このうち、Ⅱ多文化共生的要素は、基本理念の2つ目の柱である「多様な個性が輝く」や基本目標②に含まれ、Ⅲ産業的要素は、基本目標③の産業関連の記載に含まれる• 一方、Ⅰインバウンダ的要素は、基本目標③のまちの姿である「磨き上げられた『大田区ブランド』が世界に発信され、にぎわいや経済の活性化につながっています。」に含まれるが、現状の記載では分かりにくいいため、このまちの姿に「<u>世界の人々を魅了し、多くの人を訪れることで、</u>」を追記

②基本理念（案）

○基本理念の構成（案）

基本理念

（前文）

基本理念とは、基本構想全体を貫く考え方です。平和で、人権が尊重される社会を前提とし、大田区に関わるすべての人々に共通する考え方として、下記の基本理念を掲げます。

（基本理念の3つの柱）

- 1 **地域力を高める**
- 2 **多様な個性が輝く**
- 3 **豊かなまちを未来へつなげる**

（定義）

「地域力」という言葉の定義

基本理念

1 地域力を高める

地域のつながりを強化することは、防犯・防災対策、安心して子育てできる環境づくり、暮らしの活力の創出など、多様な分野の課題解決につながります。大田区がこれまで培ってきた「地域力」をより一層高め、区民、企業、地域団体や行政など、組織や世代を越えて大田区に関わるすべての主体が連携・協働することにより、安心して暮らせるあたたかいまちをつくりまします。

2 多様な個性が輝く

一人ひとりがお互いの個性を尊重し、支えあうことで、それぞれの力が発揮され、新たな価値観の発見や可能性の創造につながります。ありのままの自分で生きることができ、多様な個性がそれぞれの持ち味を活かすことにより、誰もが自分らしく活躍できるまちをつくりまします。

3 豊かなまちを未来へつなげる

区の歴史や文化を引き継ぎ、未来にわたって持続的な発展をしていくためには、先を見据えながら、変化の激しい時代にしなやかに対応することが重要です。区の特徴を踏まえ、長期的な視点をもって、柔軟かつ利便性の高いまちづくりを進めることにより、誰もが豊かに暮らし続けることができるまちを次世代に引き継ぎまします。

(定義)

「地域力」とは、区民一人ひとりの力を源として、自治会・町会、企業・事業者、団体・NPOなど様々な主体が持っている力、それら相互及び区との連携・協働によって生まれる力を含んだものであり、防犯・防災、福祉、子育て、教育、産業、環境、国際交流、まちの魅力づくりなど、多様な地域の課題を解決し、魅力ある地域を創造していく力と定義します。

②基本理念（案）

基本理念

1 地域力を高める

地域のつながりを強化することは、防犯・防災対策、安心して子育てできる環境づくり、暮らしの活力の創出など、多様な分野の課題解決につながります。大田区がこれまで培ってきた「地域力」をより一層高め、区民、企業、地域団体や行政など、組織や世代を越えて大田区に関わるすべての主体が連携・協働することにより、安心して暮らせるあたたかいまちをつくります。

2 多様な個性が輝く

一人ひとりがお互いの個性を尊重し、支えあうことで、それぞれの力が発揮され、新たな価値観の発見や可能性の創造につながります。ありのままの自分で生きることができ、多様な個性がそれぞれの持ち味を活かすことにより、誰もが自分らしく活躍できるまちをつくります。

3 豊かなまちを未来へつなげる

区の歴史や文化を引き継ぎ、未来にわたって持続的な発展をしていくためには、先を見据えながら、変化の激しい時代にしなやかに対応することが重要です。区の特徴を踏まえ、長期的な視点をもって、柔軟かつ利便性の高いまちづくりを進めることにより、誰もが豊かに暮らし続けることができるまちを次世代に引き継ぎます。

(定義)

「地域力」とは、区民一人ひとりの力を源として、自治会・町会、企業・事業者、団体・NPOなど様々な主体が持っている力、それら相互及び区との連携・協働によって生まれる力を含んだものであり、防犯・防災、福祉、子育て、教育、産業、環境、国際交流、まちの魅力づくりなど、多様な地域の課題を解決し、魅力ある地域を創造していく力と定義します。

(1) 将来像以外の内容について

③基本目標

③基本目標について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

③基本目標について

●基本目標全体に関する意見

意見	対応
<p>基本目標を通して、全部というキーワードが強い。基本目標①では「世界中の人と関わりながら」、②では「すべての人々に活躍の場」、③では「すべての主体が環境に配慮した行動」、④では「誰もが住み続けたい」、「誰もがどこへでも気軽に移動できる」となっている。目標ではなく、区民に対して行政が強制しているような印象を受けるのではないかと、少し強い言葉という印象がある。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 全部というキーワードの一部について、「すべての」や「誰もが」を削除する形で修正。修正点は以下のとおり• 基本目標①まちの姿5つ目「<u>世界中の人と</u>」⇒「<u>世界の人々と</u>」• 基本目標③説明文6行目「<u>あらゆる人々</u>」⇒「<u>一人ひとり</u>」• 基本目標③まちの姿1つ目「<u>誰もが</u>」を削除• 基本目標④まちの姿1つ目「<u>誰もが</u>」を削除• 基本目標④まちの姿4つ目「<u>誰もが</u>」を削除 <p>※「誰一人取り残さない」という趣旨で使用している箇所はそのまま</p>
<p>「誰一人取り残さない」は打ち出してほしい。「すべての」や「あらゆる」は一人ひとりを大事にした結果である。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 「目指す」は「<u>めざす</u>」に統一
<p>基本目標②～④の説明文で、3行にわたっている文章は長いと思うので、工夫した方がよいのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none">• <u>3行以上にわたっていた文章</u>は、短くなるように表現を修正

③基本目標について

●基本目標①に関する意見（1/2）

意見	対応
<p>まちの姿1つ目に、こどもの意見を尊重するという視点をもう少し入れるべきである。今年4月からこども基本法が施行され、こどもの意見の尊重が規定されており、区民アンケートにおいても、こどもの意見が重要な役割を果たしている。例えば、こどもの権利が守られ、意見が尊重され、こどもたちが将来に希望をもって育っていますと明示するのがよい。</p>	<ul style="list-style-type: none">• まちの姿の1つ目にこどもの権利と一緒に記載するのではなく、まちの姿3つ目に、こどもの意見を尊重する旨を追加する形で「こどもたちをあたたかいまなざしで包み、こどもの声に耳を傾けながら、地域全体で子育て・子育てを支えています。」に修正
<p>こどもの意見の尊重は、こどもの権利条約でも4つの原則の一つとして位置付けられており、こどもの意見を聞くということだけを取り上げることが適切なのかは難しいところではないか。選ばれる自治体をめざすということを大きく打ち出して、こどもはもちろん、すべての人に大田区を選んでいただくということは、しっかり出していきたい。</p>	
<p>意見表明権はすごく注目をされている。こどもだけではなく、大人についても意思決定支援という言葉が使われており、重度の障がいのある方や終末期医療の際に、その人の思いを尊重することは、日弁連の方も強調している。意見表明を打ち出すことは、こどもの未来につながってよいと思う。</p>	
<p>こどもの意見表明権は入れるべきである。</p>	
<p>基本目標自体に異論はなかったが、こどもの権利、意見表明権については今後精査が必要。</p>	

③基本目標について

●基本目標①に関する意見（2/2）

意見	対応
まちの姿5つ目、「人材」という言葉に違和感がある。	<ul style="list-style-type: none">• <u>「人材」⇒「人財」</u>に変更
「人材」という言葉について、民間企業でも「人材」という言葉は使わなくなっており、人は会社の財産ということを示すため「人財」を使っている場合が多い。基本目標でも「人材」ではなく「人財」を使った方がより人を大切にしている意識が伝わってよい。	
説明文やまちの姿に、こどもたちの自主性、積極性、主体性という言葉を入れてもよいのではないか。	<ul style="list-style-type: none">• まちの姿5つ目に<u>「積極的に」</u>を追記
メインフレーズの修正は前向きでよい。	

●基本目標①

未来を創り出す子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち

子どもたちが、よりよい未来を創り出す力を持ち、笑顔で元気に育つことが、大田区の明るい未来へとつながります。

また、子どもたちが豊かな愛情に包まれ、自分らしく成長することにより、まちは思いやりと活気に満ちあふれます。

明るく活力のある社会を築くためにも、

子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまちをめざします。

- 子どもの権利が守られ、子どもたちが将来に希望をもって育っています。
- 子どもたちが安全・安心で自分らしく過ごせる居場所や楽しくのびのびと遊ぶ場所が充実しています。
- 子どもたちをあたたかいまなざしで包み、子どもの声に耳を傾けながら、地域全体で子育て・子育てを支えています。
- 希望する誰もが、安心して子どもを産み、育てることができ、子どもたちが愛情を注がれて健やかに成長しています。
- 世界の人々と積極的に関わりながら、よりよい未来を創り出す人財が育っています。
- 一人ひとりに寄り添う学びにより、すべての子どもが自分らしく輝いています。

③基本目標（修正案）

●基本目標①

未来を創り出す子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち

子どもたちが、よりよい未来を創り出す力をもち、笑顔で元気に育つことが、大田区の明るい未来へとつながります。

また、子どもたちが豊かな愛情に包まれ、自分らしく成長することにより、まちは思いやりと活気に満ちあふれます。

明るく活力のある社会を築くためにも、子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまちをめざします。

- 子どもの権利が守られ、子どもたちが将来に希望をもって育っています。
- 子どもたちが安全・安心で自分らしく過ごせる居場所や楽しくのびのびと遊ぶ場所が充実しています。
- 子どもたちをあたたかいまなざしで包み、子どもの声に耳を傾けながら、地域全体で子育て・子育てを支えています。
- 希望する誰もが、安心して子どもを産み、育てることができ、子どもたちが愛情を注がれて健やかに成長しています。
- 世界の人々と積極的に関わりながら、よりよい未来を創り出す人財が育っています。
- 一人ひとりに寄り添う学びにより、すべての子どもが自分らしく輝いています。

③基本目標について

●基本目標②に関する意見（1/2）

意見	対応
フレーズを「彩り豊か」から「文化と触れあい」としていただいたが、地域の行事など、触れあうために一生懸命努力している人がある。「文化を育む」ということがこれから大切なキーワードになるのではないかと。「触れあい」は、「文化を育む」や「文化を作っていく」が適切ではないか。	
フレーズについて、「文化を育む」がよい。当初は「ふれあい」をひらがなにするのがよいと考えていた。	• フレーズを「 <u>文化を伝え育み誰もが笑顔でいきいき暮らすまち</u> 」に修正
大田区には、「まいせん」や川瀬巴水の作品があり、文化的資産があることをもっと知ってもらいたい。「触れあい」よりは「育む」が良いかもしれないが、「育む」も少し違うので、「触れあい」と「育む」をミックスした表現がよい。	
「文化と触れあい」について、「育む」など表現の整理が必要。	
基本構想改定の背景として、少子高齢化や気候変動がある。少子化と気候変動の問題は柱として1本ずつあるが、高齢化に関しては柱どころか高齢者の形跡が全く見えなくなっている。高齢化が加速していく2040年に向けて、バランスが欠けているのではないかと。	• 基本目標②の説明文7行目に 高齢者 を追記 • 元々は高齢者も障がい者もあえて記載せずに、誰もがという要素を強調するという整理だったが、高齢者を明記したことに伴い、 障がい者も明記 する形に修正
基本目標の中に「こども」はあるが、「高齢者」は全くないという意見があったが、指摘の通りであるため検討が必要。	

③基本目標について

●基本目標②に関する意見（2/2）

意見	対応
<p>「社会全体で包み込むように支えあう（ソーシャルインクルージョン）」のように、（ ）でソーシャルインクルージョンを入れるのがよいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none">• ソーシャルインクルージョンは、「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念である• 括弧書きで記載する場合は、正確な定義を記載する必要があるが、上記を基本構想上に記載するのは長すぎるため、括弧書きでのソーシャルインクルージョンは記載しない形に
<p>「にぎわい」には最初違和感があった。観光面で、世界中から多くの人々が訪れて、活気あふれる様子と理解したが、もう少しふさわしい現状を表す言葉があれば言い換えたい。【基本目標④に関する意見】</p>	<ul style="list-style-type: none">• 基本目標④のフレーズに「やすらぎ」を追加
<p>まちの姿の一番最後の「水やみどりがあり、安らぎを感じられるまち」を表す言葉がメインフレーズに入っていないことが気になる。代案として「安全・安心で、にぎわいと安らぎあふれる快適なまち」とするのがよいのではないか。公園をよりよいものにしたいという考えも出ているので、安らぎをメインフレーズに入れることで、指針にもなりえるのではないか。【基本目標④に関する意見】</p>	<ul style="list-style-type: none">• その結果、「やすらぎ」という言葉が基本目標②及び基本目標④のフレーズ両者で使用されることとなったため、表現の重複を避け、基本目標②では、以下のようにやすらぎを使用しない形に修正。<u>「心に安らぎや喜びが生まれ」⇒「心が潤い」</u>

●基本目標②

文化を伝え育み誰もが笑顔でいきいき暮らすまち

心と体どちらも健康でいることは、
いつまでも充実感のある毎日を過ごすことにつながります。
そのためには、文化や芸術といった、心を豊かにしてくれるものとふれあい、
それらを伝え育むことで、笑顔あふれる暮らしを送ることが大切です。
また、すべての人々に活躍の場があり、つながりあえることで、
元気に暮らせる社会をつくることも重要となります。
こどもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、個性をお互いに認めあいながら、
生涯にわたり、誰もが笑顔でいきいき暮らすまちをめざします。

- 一人ひとりに、社会の中での役割や生きがいがあり、誰もが自分らしい暮らしを送っています。
- 社会全体で包み込むように支えあう考え方が日常に溶け込み、つながりを感じるあたたかさあふれるまちになっています。
- 言語や慣習をはじめ、属性の異なる人々がお互いを尊重しあい、笑顔で自然に交流しています。
- 気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組むことで、生涯にわたっていきいきとした生活を送っています。
- 多彩な文化や芸術、歴史や伝統が暮らしとともにあることで、心が潤い、豊かな感性が育まれています。
- 自由に学びを深められることで、質が高く心地よい暮らしを送ることができています。

③基本目標（修正案）

●基本目標②

文化を伝え育み誰もが笑顔でいきいき暮らすまち

心と体どちらも健康でいることは、いつまでも充実感のある毎日を過ごすことにつながります。そのためには、文化や芸術といった、心を豊かにしてくれるものとふれあい、それらを伝え育むことで、笑顔あふれる暮らしを送ることが大切です。また、すべての人々に活躍の場があり、つながりあえることで、元気に暮らせる社会をつくることも重要となります。こどもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、個性をお互いに認めあいながら、生涯にわたり、誰もが笑顔でいきいき暮らすまちをめざします。

- 一人ひとりに、社会の中での役割や生きがいがあり、誰もが自分らしい暮らしを送っています。
- 社会全体で包み込むように支えあう考え方が日常に溶け込み、つながりを感じるあたたかさあふれるまちになっています。
- 言語や慣習をはじめ、属性の異なる人々がお互いを尊重しあい、笑顔で自然に交流しています。
- 気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組むことで、生涯にわたっていきいきとした生活を送っています。
- 多彩な文化や芸術、歴史や伝統が暮らしとともにあることで、心が潤い、豊かな感性が育まれています。
- 自由に学びを深められることで、質が高く心地よい暮らしを送ることができています。

③基本目標について

●基本目標③に関する意見

意見	対応
フレーズは案2がよい。並列で扱うべきだと思う。	<ul style="list-style-type: none">フレーズは案2をベースに、「<u>豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち</u>」とした
案2の方が含みや広がりがあるがよい。しかし「発展を続ける」という言葉が環境と産業の両方を受けることは難しい。そのため豊かな環境と産業の活力までは同じで、「持続可能な発展を続けるまち」を入れると、産業と環境の両方を含んだ内容になってよいのではないか。	
案2がよい。「持続可能な発展」等が入っているとよい。	
案1の方がよいが、「守られ」⇒「守り」にした方が適切である。	
案2の方がよい。他の委員の意見も踏まえて、修正する必要があるかもしれない。	
案2の方が賛同者は多いが、正確にこの基本目標の内容を表しているのは案1である。案2をベースにししながら、案1に近づけるような表現の模索が必要。	
フレーズに持続可能性の要素を入れるとすると、「豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち」はどうか。	
産業集積の前に、以前の案に合った「国内有数の」を記載するか、もしくは「国内有数の」産業集積と記載してほしい。	<ul style="list-style-type: none">「<u>国内有数の</u>」を追加

●基本目標③

豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

環境は、経済・社会などわたしたちの暮らしの基盤です。

地域社会のすべての主体が環境に配慮した行動をともに起こし、
将来の世代によりよい形で引き継いでいくことが大切です。

そして、環境が守られた上で、国内有数の産業集積の維持・発展と新産業の創造を通じ、
産業が持続的に成長することが、区の活力を将来にわたって高めていくことにつながります。

一人ひとりに環境への意識が浸透して具体的な行動につながるとともに、
多様な産業がたえまなく成長することで、持続的に発展するまちをめざします。

- 自分の行動が未来の環境を大きく左右するという意識を持ち、環境に配慮した行動を実践しています。
- 次世代クリーンエネルギーや新技術の活用を含む脱炭素への積極的な行動により、カーボンニュートラルの実現に向けた歩みを着実に進めています。
- 資源を無駄なく利用する意識が浸透し、循環型社会が形成されています。
- 区内企業が社会環境の変化に柔軟に対応することにより、生産性の向上や産業集積の維持・発展につながっています。
- 誰もが新たにチャレンジできる環境で、業種の垣根を越えたより一体的な協力関係の形成により、新たな産業やサービスが生まれ、区内企業の「稼ぐ力」が向上しています。
- 磨き上げられた「大田区ブランド」が世界の人々を魅了し、多くの人を訪れることで、にぎわいや経済の活性化につながっています。

③基本目標（修正案）

●基本目標③

豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

環境は、経済・社会などわたしたちの暮らしの基盤です。
地域社会のすべての主体が環境に配慮した行動をともに起こし、
将来の世代によりよい形で引き継いでいくことが大切です。
そして、環境が守られた上で、国内有数の産業集積の維持・発展と新産業の創造を通じ、
産業が持続的に成長することが、区の活力を将来にわたって高めていくことにつながります。
一人ひとりに環境への意識が浸透して具体的な行動につながるとともに、
多様な産業がたえまなく成長することで、持続的に発展するまちをめざします。

- 自分の行動が未来の環境を大きく左右するという意識を持ち、環境に配慮した行動を実践しています。
- 次世代クリーンエネルギーや新技術の活用を含む脱炭素への積極的な行動により、カーボンニュートラルの実現に向けた歩みを着実に進めています。
- 資源を無駄なく利用する意識が浸透し、循環型社会が形成されています。
- 区内企業が社会環境の変化に柔軟に対応することにより、生産性の向上や産業集積の維持・発展につながっています。
- 誰もが新たにチャレンジできる環境で、業種の垣根を越えたより一体的な協力関係の形成により、新たな産業やサービスが生まれ、区内企業の「稼ぐ力」が向上しています。
- 磨き上げられた「大田区ブランド」が世界の人々を魅了し、多くの人々が訪れることで、にぎわいや経済の活性化につながっています。

③基本目標について

●基本目標④に関する意見（1/2）

意見	対応
<p>「にぎわい」が何を意味しているのか分かりづらい。「活力ある」、「活気がある」の方がよいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none">フレーズの「<u>にぎわい</u>」という言葉を「<u>活気とやすらぎのある</u>」に変更
<p>「にぎわい」には違和感がある。「活気あふれる」がよいかもしれないが、もう少し議論が必要である。</p>	
<p>「にぎわい」で最初違和感を感じたが、梅屋敷の商店街を思い浮かべた。商店街が23区で一番多いことや羽田空港で人が行き交う様子など、まちのにぎやかさを表現しているのではないか。学生に大田区のイメージを聞いた際にも、便利なまちという回答が多かった。「活気ある」がよいと思ったが、「活力」と重複するのが気になる。「にぎわいあふれる」はあまり使わない表現なので違和感を感じたが、背景を考えると「にぎわい」も悪くない。</p>	
<p>「にぎわい」には最初違和感があった。観光面で、世界中から多くの人を訪れて、活気あふれる様子と理解したが、もう少しふさわしい現状を表す言葉があれば言い換えたい。</p>	
<p>「にぎわい」について賛同の声もあったが、よく分からないとの声もあった。「活気あふれる」や「活力」などに置き換えができるのではないか。</p>	

③基本目標について

●基本目標④に関する意見（2/2）

意見	対応方針
<p>「世界に誇れる」を「にぎわいあふれる快適なまち」に修正したのはよい。ただ、まちの姿の一番最後の「水やみどりがあり、安らぎを感じられるまち」を表す言葉がメインフレーズに入っていないことが気になる。代案として「安全・安心で、にぎわいと安らぎあふれる快適なまち」とするのがよいのではないか。公園をよりよいものにしたいという考えも出ているので、安らぎをメインフレーズに入れることで、指針にもなりえるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none">前頁のとおり、フレーズに<u>「やすらぎ」</u>を追加
<p>まちの姿の6つ目について、水と触れあえることが大事ということは違和感。</p>	<ul style="list-style-type: none"><u>海や川などの水辺は大田区の特徴</u>でもあるので、修正なし
<p>川や水について、大田区は海苔の産業で発展してきたまちなので、親水性にはこだわりがある。</p>	

●基本目標④

安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち

安全だけでなく安心であり、日々の生活を心穏やかに快適に過ごせることは、誰もが住み続けたいと思えるまちの実現につながります。

また、23区で唯一空港を有している強みをはじめ、様々な地域の特色をまちの活力につなげていくことも重要です。都市の強靱化を進めるとともに、多様な地域特性を踏まえて、活気とやすらぎのある快適なまちをめざします。

- 強靱な都市基盤の整備と地域の連携の強化により、心から安心できるまちになっています。
- 利便性の高い交通ネットワークの整備により、誰もがどこへでも気軽に移動できるようになっています。
- 鉄道沿線から広がる活気あるまちづくりや、空港を持つ強みを活かしたまちづくりを通じてにぎわいと交流が生み出されています。
- 安心で快適な住環境の整備により、ずっと住み続けたいまちになっています。
- 地域の特性を活かした、多様な特色をもつ公園が充実しています。
- 身近な場所で触れあえる水やみどりがあり、やすらぎを感じられるまちになっています。

③基本目標（修正案）

●基本目標④

安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち

安全だけでなく安心であり、日々の生活を心穏やかに快適に過ごせることは、誰もが住み続けたいと思えるまちの実現につながります。

また、23区で唯一空港を有している強みをはじめ、様々な地域の特色をまちの活力につなげていくことも重要です。都市の強靱化を進めるとともに、多様な地域特性を踏まえて、活気とやすらぎのある快適なまちをめざします。

- 強靱な都市基盤の整備と地域の連携の強化により、心から安心できるまちになっています。
- 利便性の高い交通ネットワークの整備により、誰もがどこへでも気軽に移動できるようになっています。
- 鉄道沿線から広がる活気あるまちづくりや、空港を持つ強みを活かしたまちづくりを通じてにぎわいと交流が生み出されています。
- 安心で快適な住環境の整備により、ずっと住み続けたいまちになっています。
- 地域の特色を活かした、多様な特色をもつ公園が充実しています。
- 身近な場所で触れあえる水やみどりがあり、やすらぎを感じられるまちになっています。

③基本目標（修正案）

●基本目標（修正案）一覧

基本目標	
①	未来を創り出す子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち
②	文化を伝え育み誰もが笑顔でいきいき暮らすまち
③	豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち
④	安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち

(1) 将来像以外の内容について

④基本構想を実現するために

④基本構想を実現するために について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

④基本構想を実現するために について

●基本構想を実現するために に関する審議会意見（1/5）

意見	対応
方策については全体的には非常によくできていると思う。出来上がったものを区民が読んで納得してもらおう上で、言葉は非常に重いので、よく考えていただきたい。	
見出しについて、「経営」は民間企業の経営をイメージする人が多いと思われるため使用しない方が良い。「自治体方針」が適切ではないか。	
見出しについて、「基本構想の実現に向けた自治体経営方針」だと②の持続可能な自治体経営と重複感があるため、シンプルに「基本構想を実現するために」でよいと思う。	• 章の見出しは「 <u>基本構想を実現するために</u> 」に修正
見出しについて、自治体経営方針という大きな言葉を唐突に基本構想の一部で表現することに違和感がある。「基本構想を実現するために」あるいは明確に名詞で終わりたい場合は「基本構想の実現に向けた方針」くらいでよいのではないか。	
②について、「デジタルツールの活用」という文言があるが、極めて表層的な印象が強く、ツールの導入よりもむしろデジタル化の推進を含めた思想の転換等が必要だと思う。この表現は再検討した方がよい。	
	• 「デジタルツールの活用をはじめとした」を「 <u>デジタル技術を用いた業務の抜本的な変革</u> 」に修正

④基本構想を実現するために について

●基本構想を実現するために に関する審議会意見（2/5）

意見	対応
<p>③協働の柱について、自治体は住民の福祉の増進に重きを置くことになっているので、民間企業との連携については違和感がある。</p>	<p>• 修正なし</p>
<p>既に地域と企業は連携協働している。例えば、防災においても、企業と防災協定を結んでいる。地域及び地域活動というものを理解していただきたい。</p>	
<p>企業が一緒になって、防災に関わっているので、企業という言葉がなくされると困る。企業がたくさんある地域も多く、ないがしろにすると町会全体が成り立たないため、1軒1軒まわって交流し、協定を結んでいる。災害時が一番課題で、災害発生時や発生後、企業が人材、金品、場所の提供のうちどの協力可能かデータを取っている。まちは簡単なものではない。様々な企業、商業、工業を含めて地域である。何を外しても地域ではないので、地域力から「企業」は外さないでほしい。</p>	

④基本構想を実現するために について

●基本構想を実現するために に関する審議会意見（3/5）

意見	対応
<p>④シティプロモーションの柱について、様々な機会や手段を通じて積極的かつ効果的に情報発信を行い、迅速かつ着実に区民に必要な情報を届けることもシティプロモーションと表現されているが、この表現は一般的な意味からも外れており、誤っているのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 「<u>迅速かつ着実に区民に情報を届ける</u>」という単純な情報発信に関する内容は柱③（<u>区民や地域団体、企業との連携・協働</u>）に記載• 柱④（シティプロモーションの強化）では、区民に大田区での暮らしに愛着や誇りを持ってもらう趣旨の情報発信に表現を修正
<p>④「様々な機会や手段を通じて、積極的かつ効果的に情報発信を行い、迅速かつ着実に区民に必要な情報を届けます。」という部分がシティプロモーションに馴染むのかという点について、選ばれる自治体をめざす上で、情報発信がなければ絶対に選んではもらえない。私たちがやっていることや私たちのまちの素晴らしさを、自分たちの中で止めることなく、人に共感してもらえるような情報発信をしていくことが大田区の発展の中ですごく重要になってくるため、その点はまさにシティプロモーションと言えるのではないか。</p>	

④基本構想を実現するために について

●基本構想を実現するために に関する審議会意見（4/5）

意見	対応
<p>⑤について、柱の一つとして立てることはよいが、「すべての職員が区政を取り巻く様々な課題に関心を持ち、主体的に地域課題を把握することにより、地域の声を柔軟に政策に反映させていきます。」という中身が、あまりにも当たり前の記載ではないか。リスキリングやDX、デジタル技術の活用等、能力の向上に関して先を見ている印象を与えるような文言が入った方がよいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none">2文目以降の表現を修正し、資質の向上について、<u>新たな知識・技能の習得や専門性向上等を盛り込み、先を見据えた内容</u>とした
<p>⑤について、行政サービスを受ける区民の方に、窓口や電話対応等でご満足いただけるという視点で大事だと思う。会計年度職員や民間委託のスタッフ等も含めて職員であるということも入れていただきたい。行政側にとって非常に重要なところなので、どのように表現するか精査していただき、特に位置付けて書くべきものは何なのかというところを工夫してもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none">職員をどう考えるかという内容は、基本構想としては具体的過ぎる内容であるため、<u>基本計画や自治体経営戦略等で対応</u>
<p>③と⑤に関連して、地域の人是不変わるけれども、行政の職員は3年ごとに変わり、業務は引き継がれても、その人と付き合いしてきたことの引継ぎは絶対にできないので、この担保をどのようにしていくのか。⑤と特に関係するかもしれないが、区の中で専門職をどうやって作っていくか（異動することで行政の専門職にはなれるが）という点についても、基本構想の実現においては必要だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none">⑤に<u>「専門性の向上」</u>を追記

④基本構想を実現するために について

●基本構想を実現するために に関する審議会意見（5/5）

意見	対応方針
<p>「能力」という言葉は「能力主義」などとして、生まれながらの身体的・精神的な能力の違いで差別につながる。</p> <p>⑤について、「意識・能力の向上」は、たとえば「意識・資質の向上」など、「能力」を用いない表現ができればよい。（石渡委員 追加意見）</p>	<ul style="list-style-type: none">⑤の見出しは、<u>「職員一人ひとりの意識・資質の向上」</u>に修正

基本構想を実現するために

①基本計画の策定

基本構想で描いた将来像を実現するためには、その道のりを未来から現在へさかのぼり、戦略的に政策体系を整理した基本計画を策定し、着実かつしなやかに推進することが重要です。

基本構想の目標年次である2040年ごろだけでなく、2030年SDGsの達成や2050年脱炭素社会の実現といった、他の重要な目標の達成年次や社会情勢等を踏まえた上で、戦略的に政策を展開します。

また、計画の進捗状況について評価・分析を行うとともに、社会情勢の変化等に応じて適時見直しを行うことで、不確実性の高い時代においても、基本構想の実現に向けた取組を着実に進めていきます。

②持続可能な自治体経営

区を取り巻く社会経済状況が変化する中においても、新たな基本構想を着実に推進するためには、将来にわたり行政が持続可能性を確保することが重要です。

その実現に向け、人材・財源などの区が有する経営資源の最適化や、デジタル技術を用いた業務の抜本的な変革など、生産性向上に資する取組をまとめた具体的な戦略を策定し、実践します。

③区民や地域団体、企業との連携・協働

基本構想で描いた将来像を実現するためには、大田区に関わるすべての人々が力を合わせてともに取り組んでいくことが重要です。そのため、様々な機会や手段を通じて、迅速かつ着実に情報発信を行うとともに、区民の様々な声を大切に、区政への区民の主体的な参画を推進します。

さらに、自治会・町会、企業、団体・NPO及び学術機関等の様々な主体による連携・協働を一層推進し、多様化する地域課題に迅速に対応します。

また、企業等と行政のそれぞれが持つ強みを活かし、新たな価値を創出するとともに、区民・企業等・行政の真の「三方良し」を実現します。

基本構想を実現するために

④シティプロモーションの強化

基本構想の実現に向けては、住む場所・働く場所・訪れる場所として選ばれ、まちの活力を維持・向上させていくことが重要です。そのため、多様な魅力や地域資源を踏まえた戦略的なプロモーションにより、区の認知度やブランドイメージを向上させます。

また、大田区での暮らしに愛着や誇りを持てるよう、区民に対しても積極的に区の魅力を伝えていきます。

⑤職員一人ひとりの意識・資質の向上

基本構想で描いた将来像を実現していくためには、職員一人ひとりが、自ら考え、行動することが重要です。

社会変化や技術革新の動向も見据え、職員は、区政を担うプロフェッショナルとして職務に取り組むとともに、常に区民目線に立ち、丁寧かつスピード感を持って対応していくことが求められます。

新たな知識や技能の習得だけでなく、幅広い視野や経営的な感覚を持ち、多様化する行政課題への迅速・的確な対応に向けた専門性の向上を図ることで、区民サービスの質の向上につなげていきます。

④基本構想を実現するために（修正案）

基本構想を実現するために

①基本計画の策定

基本構想で描いた将来像を実現するためには、その道のりを未来から現在へさかのぼり、戦略的に政策体系を整理した基本計画を策定し、着実かつしなやかに推進することが重要です。

基本構想の目標年次である2040年ごろだけでなく、2030年SDGsの達成や2050年脱炭素社会の実現といった、他の重要な目標の達成年次や社会情勢等を踏まえた上で、戦略的に政策を展開します。

また、計画の進捗状況について評価・分析を行うとともに、社会情勢の変化等に応じて適時見直しを行うことで、不確実性の高い時代においても、基本構想の実現に向けた取組を着実に進めていきます。

②持続可能な自治体経営

区を取り巻く社会経済状況が変化する中においても、新たな基本構想を着実に推進するためには、将来にわたり行政が持続可能性を確保することが重要です。

その実現に向け、人材・財源などの区が有する経営資源の最適化や、デジタル技術を用いた業務の抜本的な変革など、生産性向上に資する取組をまとめた具体的な戦略を策定し、実践します。

③区民や地域団体、企業との連携・協働

基本構想で描いた将来像を実現するためには、大田区に関わるすべての人々が力を合わせてともに取り組んでいくことが重要です。そのため、様々な機会や手段を通じて、迅速かつ着実に情報発信を行うとともに、区民の様々な声を大切に、区政への区民の主体的な参画を推進します。

さらに、自治会・町会、企業、団体・NPO及び学術機関等の様々な主体による連携・協働を一層推進し、多様化する地域課題に迅速に対応します。

また、企業等と行政のそれぞれが持つ強みを活かし、新たな価値を創出するとともに、区民・企業等・行政の真の「三方良し」を実現します。

④基本構想を実現するために（修正案）

基本構想を実現するために

④シティプロモーションの強化

基本構想の実現に向けては、住む場所・働く場所・訪れる場所として選ばれ、まちの活力を維持・向上させていくことが重要です。そのため、多様な魅力や地域資源を踏まえた戦略的なプロモーションにより、区の認知度やブランドイメージを向上させます。

また、大田区での暮らしに愛着や誇りを持てるよう、区民に対しても積極的に区の魅力を伝えていきます。

⑤職員一人ひとりの意識・資質の向上

基本構想で描いた将来像を実現していくためには、職員一人ひとりが、自ら考え、行動することが重要です。

社会変化や技術革新の動向も見据え、職員は、区政を担うプロフェッショナルとして職務に取り組むとともに、常に区民目線に立ち、丁寧かつスピード感を持って対応していくことが求められます。

新たな知識や技能の習得だけでなく、幅広い視野や経営的な感覚を持ち、多様化する行政課題への迅速・的確な対応に向けた専門性の向上を図ることで、区民サービスの質の向上につなげていきます。

(1) 将来像以外の内容について

⑤基本構想に掲載する参考資料

⑤基本構想に掲載する参考資料について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

⑤基本構想に掲載する参考資料について

●基本構想に掲載する参考資料に関する意見

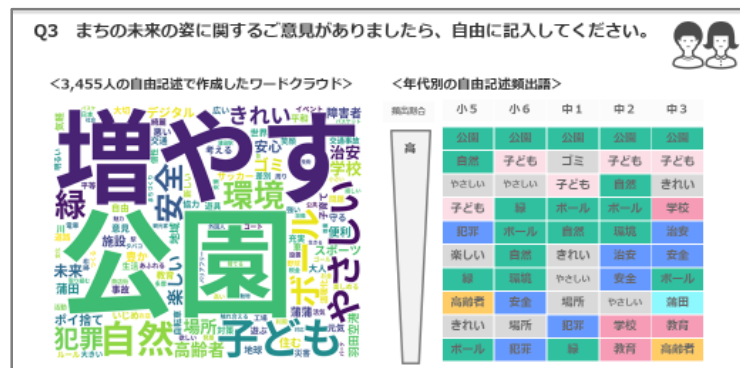
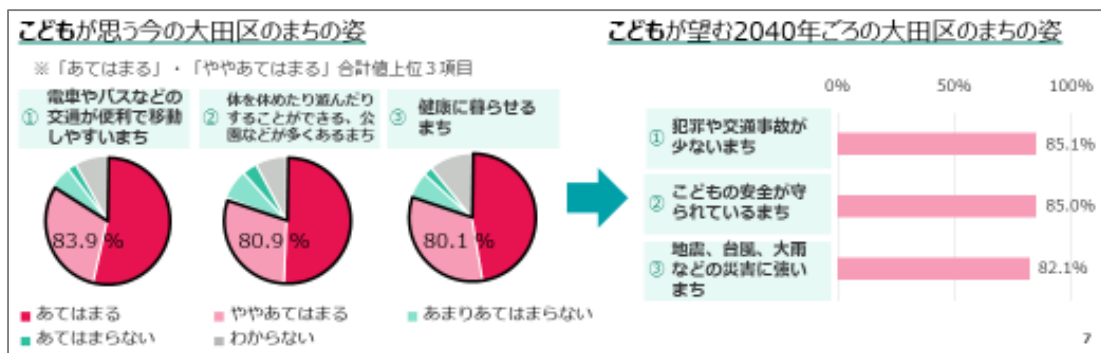
意見	対応
アンケートの結果概要については、参考資料にぜひ入れていただきたい。	<ul style="list-style-type: none">• アンケートの結果概要は参考資料に入れる• アンケートの結果概要は、こども（中学生以下）と大人（高校生を含む）を中心に記載し、参考としてこどもと大人を合わせた全体の結果も示す• アンケートの実施概要にサンプル数を明記する• 誤解が生じないように、例えばワードクラウドの注意点を次のとおり記載するなど、誤解が生じないようにする （※独立した単語から作成しているため、「公園を増やしてほしい」という意見が多いとは限りません。）
アンケートの結果概要については、参考資料にぜひ載せていただきたいが、大人とこどもという整理の仕方に違和感がある。こどものアンケート結果は重要なので、抽出するのはよいが、全体とこどもという分け方で十分なのではないか。	
アンケートの結果概要について、大人とこどもで分けるのであれば、大人と保護者とこどもで分けた方が、意見と結果の違いが見えてよいと思う。ただ、今回特筆すべきは、こどもたちの意見が多く集まったということだと思うので、サンプル数として、全体の中でこどもの回答が多いという、サンプル数が見える結果表示がよいのではないか。 ワードクラウドをそのまま表示すると、「増やす」「公園」で「公園を増やしてほしい」といった誤解が生まれるため、ビジュアルと現実が違うという補足説明は必要だと思う。	
こどもの意見が非常に多く、重要なことだと思うので、こどもの意見を目立たせる上でもパターンAで、大人とこどもの2属性のみを掲示した方がよいのではないか。実際大人と保護者で回答があまり変わらなかったところもあるため、パターンAで掲載して、こどもの意見を目立たせることに賛成である。	

⑤基本構想に掲載する参考資料について

●アンケート結果の示し方

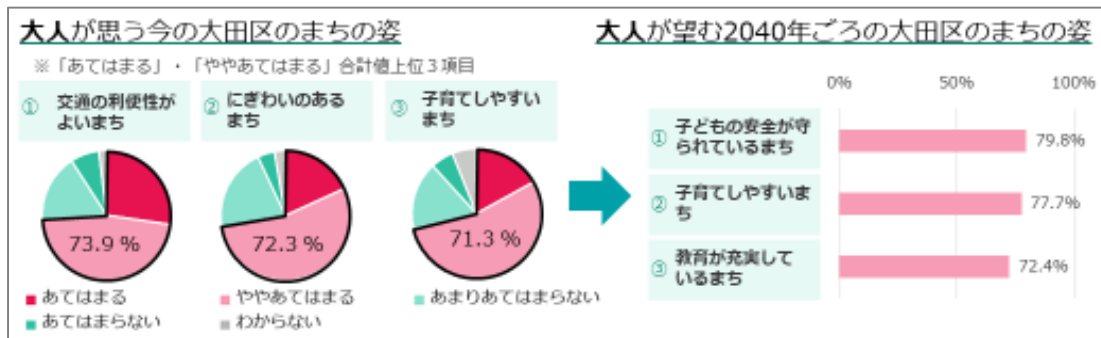
こども・大人・全体（参考）の結果を示す

①こども（中学生以下）



②大人（高校生を含む）

※こども版アンケートは小中学生を対象として設計したため、高校生は大人版アンケートで回答。



③参考として、こどもと大人を合わせた全体の結果も示す

※サンプル数とワードクラウドの注意点も記載

(1) 将来像以外の内容について

⑥基本構想策定の背景

⑥基本構想策定の背景について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

⑥基本構想策定の背景について

○新たな基本構想

序章 基本構想策定の背景と役割

1 策定の背景（案）

大田区は、昭和22年に当時の「大森区」と「蒲田区」が一つになり、両方の一字ずつを取って誕生しました。23区の中で最大の面積を有し、全国的に見ても大規模な自治体です。世界の主要都市とつながる羽田空港、高度な技術力を持つ多くの町工場、にぎわいあふれる商店街、海辺や台地、多摩川など豊かな自然と美しいまちなみ、大正から昭和初期にかけて、多くの文人や芸術家が暮らした馬込文士村と称される馬込・山王地域などを有し、「東京の縮図」といわれる多くの可能性と潜在的な力を持ったまちです。

大田区では、平成20年に基本構想を策定し、既に15年が経過しました。平成20年から令和4年の間に、区の総人口は約67万人から約73万人に増えましたが、年齢構成比を見ると、65歳以上の割合は20.1%から22.6%に増加しています。逆に15歳未満の年少人口の割合は11.4%から10.6%に減少しており、今後、更に少子高齢化が進行していくものとみられています。

また、温暖化などに伴う気候変動により、区の平均気温は平成20年の16.2℃から令和4年の16.9℃へと上昇し、1時間の降水量が50mmを超えるような豪雨の発生件数も上昇傾向にあります。令和元年の台風19号では、上流域への記録的な降雨の影響により、多摩川の水位が大幅に上昇し、大田区にも甚大な被害をもたらしました。

そして、近年における新型コロナウイルス感染症の流行については、過去に例を見ない行動制限やマスクの着用といった生活様式の変化はもちろんのこと、働き方にも大きな影響を与えました。対面での接触を避けるため、行政・民間企業問わず、オンライン会議をはじめとした非対面での会議や、非接触のキャッシュレス決済が浸透するなど、デジタル技術の活用がより一層進んだという一面もありました。

まちづくりについては、区の40年来の悲願である新空港線の整備に向け、令和4年6月に整備に関する都区間合意に至ったことで、新空港線整備と合わせて鉄道沿線のまちづくりに着実に取り組むための扉を開くことができました。地域と羽田空港とのつながりがさらに強化され、ともに発展していくことで、誰もが住み続けたいと思える魅力あるまちになることが期待されます。

区を取り巻く社会情勢は刻々と変化しています。今後、更なる進行が見込まれる少子高齢化や、地球温暖化に伴う自然災害の激甚化や生態系の変化、情報通信技術の加速度的な進展や不透明さを増す国際情勢など、様々な要因が複雑に絡み合うことで将来を見通すことが難しくなり、不確実性は増していくことが見込まれます。

このような状況を踏まえ、将来の大田区のあるべき姿を提示するため、新たな基本構想を策定いたします。

⑥基本構想策定の背景について

○参考：現在の基本構想（平成20年10月策定）

序章 基本構想策定の背景と役割

1 策定の背景

大田区は、23区の中で最大の面積を有し、全国的に見ても大規模な自治体です。羽田空港という国際交流拠点を持つ一方、臨海部や多摩川などの水辺や自然にも恵まれています。また、職住近接の商業と住宅が隣接するまち、高度最先端のものづくりの技術を有するまち、馬込文士村等の歴史と文化のまちなど、たくさんの可能性と潜在的な力を持ったまちです。

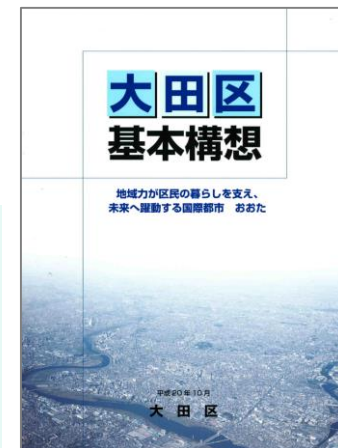
大田区では、昭和57年に基本構想を策定し、既に25年が経過しました。その当時、大田区の人口は約66万人で現在とほぼ変わらないものの、14歳までの幼・少年人口は約13万人と、現在に比べ5万人多く、65歳以上の老年人口は約6万人と現在の半分でした。今後20年先の人口予測では、総人口はほぼ変わらないものの、幼・少年人口は7万6千人から6万2千人に減少し、老年人口は13万人から15万人（総人口に占める割合は23%）に増加すると予測されており、少子・高齢社会が急速に進んでいくこととなります。

区内産業においては、昭和58年に9千を超えていた工場数も平成17年には約4千8百へと減少し、大田区のものづくりの特徴である産業ネットワークの維持や、高度な技術・技能の継承などに課題が生じてきています。また、大規模工場が集合住宅や商業施設へと変わり、まちの姿にも大きな変化が見られます。

まちづくりにおいては、田園調布せせらぎ公園や大森ふるさとの浜辺公園・海苔のふるさと館など、大田区の魅力を高める地域資源の充実が図られています。さらに平成16年度から始まった羽田空港の再拡張事業により、平成22年には4本目の滑走路が完成し、羽田空港の国際化が進みます。今後、空港跡地の活用も含め、空港周辺のまちづくりが本格化していきます。

大田区を取り巻く制度も変化しています。平成12年には都区制度改革が実施され、清掃事業など区民に身近な事務が東京都から区に移管されました。近年では、道州制を含めた国の地方分権改革論議の高まりや、都区のあり方に関する検討など、地方自治制度の改革も新たな段階を迎えています。

このような社会状況を踏まえ、大田区のめざすべき姿を提示するため新たな基本構想を策定いたします。



意見交換のポイント

- 「第2章 将来像」以外の部分について意見交換

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	